

# 図書館報

第57号

発行 社高等学校  
編集 図書委員会

## 読書のすすめ

教頭 白井 和彦

### 1 はじめに

3月までのこの時期は、過去1年間、あるいはそれ以前の自分を回顧し、4月から新しい自分探しのスタートを切るまでの最良の準備期間です。来年度の進路がほぼ決まったこの時期だからこそ、自分に合った多くの良書に出会って読み耽（ふけ）る時間も大切です。

### 2 読書のすすめ

皆さんが日頃している学習成績を向上させることは大切です。学生の本分は勉強です。しかし、勉強は就職や大受験のためのものではありません。これから知らないことが尽きることなく出てくる。そして知りたいと思うようになる。そのときに高校で身に

つけた知識が活きてくる。知識がなかったら気づかずに通り過ぎていく。わかったら更に興味を湧いて、より深く知りたくなる。ですから興味を持って学習してください。その素地や感性を涵養するのが読書なんだと思います。単なる例を挙げれば、小学生低学年の頃に見たアニメをもう一度大学生になってから視ると視点も深みもまるで違っていたということですが。

時代も世相も価値観も一般常識も違う、今はこの世にいない故人の内面に触れることで、時代や様々な違いを越えてすぐそばに寄り添い親しく共感できる。また、その人が書を書き出すことになった経緯（いきさつ）を知るのも、著者の訴えを掴む上で有効的です。

先日、商店街の外れの人通りも少ない一角に小さな書店を構えた女性の店長さんに会

いに、尼崎市に行ってきた。「コバシヨ」こと小林書店の店長さんで、開店当初は本の仕入れがままならず、頼まれた傘を売りに自ら商店街に向いて丁寧に説き回り、完売したおばさんで、この書店に本を買いに訪れた人や、仕事に失敗したサラリーマン達

楽しい一時です。皆さんにも同じような読書のペースなりサイクルがあるでしょう。月に一冊も読まない人もいます。しょう。ならば少々粗くてもいいから、何か一冊を見つけて読んでみましょう。

### 3 本の紹介

が話を聴きに来て勇気づけられることで話題になり、映画化までされた方です。私も本を買おうというのは名目で、この小林さんの話を聴きたくて訪れたというのが本音でした。期待は裏切られませんでした。私が手に取った一冊の本は、ベストセラーから惜しくも外れたものだったけれど、小林さんは著者が執筆するに至った経緯を物語風に語ってくれ、

本を勧めるわけではありません。日本の歴史が苦手な人に、少し偏っていますが、江戸から明治維新を舞台にした歴史小説を紹介します。司馬遼太郎著「燃えよ剣」、さらにタイトルに剣のつく池波正太郎著「剣客商売」では群雄割拠の荒れた時代と違って安寧の世となった時代に武士の存在意義や価値が揺らぎ始め、武士自ら剣客を買って出た。

どうも歴史小説は苦手という人が歴史を味わうために、もう1つ歴史漫画を紹介します。「風雲児たち」全30巻は面白おかしく江戸後期を物語っています。先に挙げた物語がすべて集約されていて、何度も読み返せる希少な漫画本です。

購入して店を後にしました。それから私の乏しい読書熱が再燃し始めました。

最近希薄になってきたと思える人情と揺るがない正義感に、何やらすっきりとした気分になります。また主人公は美食通でもあり、普段何気なく食

3学期始業式の冒頭で言いましたが、現状に立ち止まって満足していたら、これからの進歩なり生き甲斐はそこで止まってしまいます。読書が楽しいと実感できたら、多くの気づきから興味関心が生まれ、現状に満足できず、自然に先に歩を進めたくなるでしょう。

新聞も身近な良書です。私は毎日届く新聞はいい加減にざっと目を通しますが、毎週日曜日の早朝に日経新聞（日曜版をコンビニで買い求め、朝食の後読み耽ります。とても考えさせられ、気づかされ、

かのような錯覚に陥ることもあります。もう一つ井上靖著「おろしや

国酔夢譚」では、江戸末期に伊勢の港を出た商船がしげに遭って漂流し、その挙句大黒屋光太夫率いる船乗りはカムチャツカ半島に漂着した際にロシア人に出会い、ロシアまで連行される話です。壮絶な経験と望郷の想いが鮮やかに描写されていて、一時も飽きが来ません。

彩る何かです。

#### 4 ちよつといひ話

『花瓶の水』・・・ある田舎

町の学校に、東京からひとり女の子が転校してきました。都会からの転校生に田舎の生徒たちは、大変興味があつて、その子の廻りにやつて来ては、『それは何？』『その服はどこで買ったの？』『その髪型は何と言うの？』といった質問を浴びせます。しかし、その女の子はというと、内気でおとなしくシャイな子供だったので、廻りの質問にちゃんと答えられず、『わかんない』『お母さんに買ってもらった』などと、恥ずかしがつて答えていました。

起こつたのです。

それは授業中でした。「先生、花の水を代えてきます」その男の子は言うが早いか、教壇の横に置かれた花瓶を手にすると走り出しました。今まで花の水を気にしたのを見たことがありませんし、ましてや静まり返つた授業中の出来事です。「コラ！何やつている、今授業中だぞ。花の水なんかあとでいい。」呆氣にとられながらも反射的に先生が大声を出したとき、不運にも事件は起きました。

クラスの中でも大人しいその転校生の女の子の席で男の子が止まつたかと思うと、彼女の頭の上に花瓶をひっくり返したのです。一瞬、教室内が凍りついたように静まり返りました。花瓶の水がスカートに伝つて女の子の足元まで水浸しで、床には花瓶に差してあつた黄色やピンクの花が散らばつています。静まりかえつた教室は次の一瞬「あーあ！あーあ！」の大合唱。女子児童は男の子に対して非難の声を上げ、男の子たちは面白がつて囃子立てます。「わざとやつたんだよ」「かわいそー」

「ひどいよー」しまいには口笛を吹いて面白がる始末です。こうなると先生が幾ら言つても無駄です。普段から大人しくて恥かしがり屋の女の子は、みんなの注目を浴びてかわい

そうなほど小さくなつていきます。先生は2人の所へ駆け寄りました。「どうしてこんな事をやつたんだ」と先生が怒つても、男の子は何も答えませぬ。ただ、「ごめんね。ごめんね」と言いながら、男の子は申し訳なさそうに、俯いている女の子に頭を下げると、花瓶を持つて走り出したときと同じような素早さで、教室の後ろからバケツと雑巾を持ってきてこぼれた水を拭き始めました。びしょぬれのスカートで座つたままの女の子は本当に気の毒なくらいに押し黙つています。先生が女の子を着替えさせるために保健室に連れて行つた時、大騒ぎするクラスの中でも、男の子は黙りこくつて床にこぼれた水を拭いていました。この時、生徒たちの気持ちの中には、「人

してこの事件は、このクラスで「花瓶の水」事件として、永く記憶に残る事になったのです。

それから数年後、生徒たちも20歳になりました。田舎の成人式には、町を出て行つた子供たちも帰つてきていたので、久しぶりにクラス会が行われました。あの時水をかけた男の子もいました。水をかけた女の子も東京からやつて来ました。そして、会も盛り上がり、集まつたクラスの一人一人が小学校時代の思い出を話しました。その時、水をかけられた女の子が、小学校時代の一番の思い出を語るときに、この「花瓶の水」事件を話してくれました。そしてその話を聞いたとき、クラスメートも先生もびつくりしました。その話を聞いて、「思つていた話とは違う！」と誰もが思つたのです。女の子は話し始めました。なんと女の子は、あの時、トイレを我慢していたのです。内気でおとなしく恥ずかしがり屋の女の子は、先生に「トイレに行きたい」と言えなかつたのです。しかし、どうして

も我慢できなくて、おしっこを漏らしていたのです。そのことに誰よりも早く気付いたのが、あの男の子だったのです。男の子は、女の子を助けようと一生懸命考えました。そして、必死になつて考えつたのが花瓶でした。花瓶の水をその女の子のスカートにわざとかけ、おしっこを漏らしたことを周りのみんなに気付かれないように気を配つたのです。自分が先生や友達から変に思われようとも、その子を助けたかつたのです。周りの子からは、「わざとやつたんだよ」「かわいそー」「ひどいよー」という声を浴びせられたけど、一言もその事実を語りませんでした。先生もこのクラス会までその事を知らなかつたのです。その子の話が終つたとき、大きな拍手が湧き、クラス会は大いに盛り上がりました。「ついてもいい嘘」と「言つてはいけない真実」

教頭先生のおすすめ本

燃えよ剣

司馬遼太郎

剣客商売

池波正太郎

おろしや国酔夢譚

井上靖

風雲児たち

みなもと太郎

高校生におすすめ本

第一位

一瞬の風になれ

佐藤多佳子

春野台高校陸上部、一年、神谷新二。スポーツ・テストで感じたあの疾走感……。ただ、走りたい。天才的なスプリンター、幼なじみの連と入ったこの部活。すげえ走りを俺にもいつか。デビュー戦はもうすぐだ。「おまえらが競うようになったら、ウチはすげえチームになるよ」。青春陸上小説、第一部、スタート。

第二位

植物図鑑

有川浩

お嬢さん、よかったら俺を拾ってくれませんか。嘔みません。蟬のできた良い子ですー。思わず拾ってしまったイケメンは、家事万能のスーパー家政夫のうえ、重度の植物オタクだった。樹という名前しか知らされぬまま、週末ごとに近所を「狩り」する、風変わりな同棲生活が始まった。とびきり美味しい(ちよっぴりほろ苦)道草恋愛小説。レシピ付き。

第三位

星の王子様

サン・テグジュペリ

砂漠に飛行機で不時着した「僕」が出会った男の子。それは、小さな小さな自分の星を後にして、いくつもの星をめぐってから七番目の星・地球にたどり着いた王子さまだった……。一度読んだら必ず宝物にしたくなる、この宝石のような物語は、刊行後六十年以上たった今も、世界中で

んなの心をつかんで離さない。最も愛らしく毅然とした王子さまを、優しい日本語でよみがえらせた、新訳。

第四位

アンドロイドは  
電気羊の夢を見るか  
フリップ・ヌ・ディック

長く続いた戦争のため、放射能灰に汚染され廃墟と化した地球。生き残ったものの中には異星に安住の地を求めるものも多い。そのため異星での植民計画が重要視されるが、過酷で危険を伴う労働は、もっぱらアンドロイドを用いて行われている。また、多くの生物が絶滅し稀少なため、生物を所有することが一種のステータスとなっている。そんななか、火星で植民奴隷として使われていた8人のアンドロイドが逃亡し、地球に逃げ込むという事件が発生。人工の電気羊しか飼えず、本物の動物を手に入れたいと願っているリックは、多額の懸賞金のため「アンドロイド狩り」

の仕事を引き受けるが……

登場人物の人間関係、恋愛、家族のきずななどが見事に盛り込まれている作品。

第五位

桐島、部活やめるとよ  
朝井りょう

田舎の県立高校。バレー部の頼れるキャプテン・桐島が、理由も告げずに突然部活をやめた。そこから、周囲の高校生たちの学校生活に小さな波紋が広がっていく。バレー部の補欠・風助、ブラスバンド部・亜矢、映画部・涼也、ソフト部・実果、野球部ユーレイ部員・宏樹。部活も校内での立場も全く違う5人それぞれに起こった変化とは……？ 瑞々しい筆致で描かれる、十七歳のリアルな青春群像。第二十二回小説すばる新人賞受賞。

二年三組 西岡愛莉 田畑彩奈

『ハッピー・バースデー』

青木和雄 吉富多美

あすかは母・静代の精神的虐待を受け続けていたが、それでも「母に愛されたい」と思っていた。しかしあすかの

十一歳の誕生日に兄・直人からの暴言を吐かれ、その直後に母親の非常な言葉を聞いたショックから声を失ってしまった。「生まれてこない方がよかった」とまで思うほど追いつめられるあすかだったが、祖母の無償の愛によって心の傷を癒し人々との出会いや別れによって多くのことを学び成長していく。そして、あすかのその姿を見て、顧みようとしなかった家族も自分たちの過ちに気づき、自分自身の心を見つめ直し、あすかのことを受け入れていくようになる。

私がこの本を読んだとき、とても感動したことを覚えてい

る。母からの虐待によって声が出なくなってしまうあすかの祖父の家で生まれ変わっていき強い姿に感心した。母はあすかの誕生日を忘れて

いたが、物語のラストに書かれている次の誕生日には、作り慣れないケーキをあすかのために作って渡すというシーンが一番印象に残っていて気に入っている。

冒頭の誕生日からのラストの次の誕生日までの間に起きた出来事は辛いことが多く、重い気持ちになるが、その中で、家族の大切さ、生きることとの素晴らしさ、一度ついた心の傷は二度と治らないという、大切なことを気づかせてくれる一冊だ。ぜひこの本を読んで、主人公と一緒に泣いたり元気づけられてほしい。

ハッピー・バースデー  
青木和雄  
吉富多美

二年四組 治郎丸大成

『コードブルー』 林宏司

天才ピアニスト天野奏の手術は、無事終わったものの、後遺症がでてしまいました。藍沢は、目指していたトロンボ大学行きを辞退する意志を

固めました。名取、灰谷、横峰の3人のフェローは、生死にかかわる現場で数々の訓練を乗り越え、一歩ずつ成長していきます。そんなある日、白石、灰谷、雪村を乗せたドクタヘリーが着陸ミスを起こしてしまいます。

医師患者とその家族たちがおりなすさまざまな命の物語です。

このコードブルーの感動するシーンは、地下鉄の事故時に藤川先生が大怪我しているのを藍沢先生と冨島さんが救ったシーンです。

コードブルーの中ですごいなと思ったシーンは、大怪我をしてしまった藤川先生が親と離ればなれになってしまった、翔(かける)君のために地下鉄からの脱出する道を教えてあげていたシーンです。

コードブルーは、1つのミスも許せない緊張感のなかで、一人でも多くの命を救うスーパーフライトドクター5人組のストーリーです。

小説でも読めるし、テレビでもやっていたので、興味がある人はぜひ読んでみてください。

コード・ブルー  
林宏司

二年五組 藤本美咲

『不思議の国のアリス』

ルイス・キャロル

私がお薦めしたい本は不思議の国のアリスです。この本は表題からして読者を引きつけ、どんな不思議な国が出てくるのだろうかと読者をわくわくさせます。読み出してみると、飲み物を飲むと、身体がどんどん小さくなる。現実では考えられない事です。物語は、小さくなったアリスの考えつかない体験が次々と始まります。小さくなったアリスが大泣きすると、涙の池ができる、なんとまあ不思議なことがあるものだ。そしてその池にはまって苦労します。つぎに飲み物を飲むと大きくなる。次は大女としての体験が始まります。アリスは普通のサイズでは考えもつかないことを体験します。現代では、

宇宙まで人間が向かい、海では深海探査艇が一万メートル以上の深海まで潜って科学調査をする。電子顕微鏡の出現により、細菌↓ウイルス↓と、益々小さなものまで見えるようになり、発見・発明が次々とつづいています。こんな現実と大きくかけ離れた空想が広げられる。小版で薄い一冊の本なので、一気に読み勧めてしまいました。皆さんもこの本の題名を聞いたことがあると思います。ぜひ読んでみてください。

二年六組 寺越杏

『怪談のテープ起こし』

三津田信三

この作者である三津田さんは、自殺者が死ぬ前の肉声を収めたテープに出会います。

このテープを調べていくうち、編集者は「カセットから離れていると、どうしても、また聞きたくなる」と言い出し不穏な状況に。

そして三津田さんは自分でも怪談を記録していたテープとこれらの奇妙な共通点に気づいてしまいます。

この現実とフィクションが曖昧になる、うす気味悪い雰囲気、三津田さんの小説の特徴なのですが、この三津田シリーズではへなにか物音がしたり、不可解な、できごとがあれば、すぐに本を閉じてください」といった、こちら読者への怪談的影響をおもわせるようなフレーズがあります。何回、ここで本を閉じたことか、ほかのどんな恐ろしい怪談よりも、この不穏なアドバースが一番怖くおもえるのです。恐いもの好きの方は是非ご一読を。

怪談のテープ起こし

三津田信三

二年七組 藤本葉月

『Another』 綾辻行人

皆さんはホラーやミステリーは好きですか。苦手な人も、好きな人はさらに楽しむことができるのが当作品です。この物語は一九九八年の春に主人公の榊原恒一が夜見山北中学校の三年三組に転入してきたことから始まります。何かに怯え、何かを隠しているようなクラスメイトの言動。周囲の人間と関わろうとしない、幽霊のような女子生徒・見崎鳴。そんなある日、クラスメイトの一人が凄惨な死を遂げます。実は三年三組は「災厄」と呼ばれる死の連鎖によって呪われたクラスだったことが分かります。三年三組の生徒とその関係者は「災厄」に巻き込まれていくというのがこの物語のあらすじです。

一年一組 近藤希愛来

『恋に至る病』 斜線堂 有紀

守るとはなにか、考えさせられる心揺さぶる作品をぜひ読んでみてください。

恋に至る病

斜線堂有紀

一年三組 川田沙愛

『君の臍臓をたべたい』 住野よる

皆さんは誰かを守りたいと強く思った事がありますか。この本は誰からも好かれる人気者の少女と幼馴染の少年の切なく不気味な恋物語です。少女は日本中を震撼させる自殺教唆ゲームの主催者であり、一五〇人以上を自殺に追いやる恐ろしい存在でした。少年はそんな彼女を愛することが辞められず、彼女の味方であり続けることを約束しました。善良だったはずの少女を狂わしたのは自分であるという罪を背負いながら生きて行くことと決めてしまった少年はどのようにして少女とこの先を生きて行くのか。また少女はなぜ人々を自殺に追いやることを始めてしまったのか。物語の中で次々と明かされる異常な過去に衝撃を受けるでしょう。登場人物一人一人の言動に注目して読めばより楽しむことができます。少女を愛し続けた少年がたどり着く地獄とは？暴走する愛と連鎖する悲劇を描く恋愛ミステリーです。愛とはどういう感情なのか、

この本を選んだ理由は「君の臍臓をたべたい」という言葉に衝撃を受け、読みたいと思ったからです。臍臓の病気で余命宣告をされたクラスの人気者の女の子「桜良」と主人公「僕」のお話です。お互いが自分に欠けている部分に次第に心を通わせながら成長していく物語です。

この作品はミステリー小説界でも有名な綾辻行人さんが書いています。物語の序盤から伏線が多くあり、一目見てそれと気付かせる手腕は本当に見事でした。ミステリー要素だけでなく、恐怖をリアルに描写することで増大するホラー要素も魅力的でした。上下巻で計六〇〇ページを超える長編ですが、世界観に引き込まれるので最後まで飽きずに読むことができます。スピンオフと当作品の三年後を舞台とした新編も出版されているので、こちらもぜひ読んでみてください。長い文章を読むのが苦手な人は、アニメ化や実写映画化もされているので、そちらで見ると良いと思います。それぞれ結末が異なっているので、違いを比較する楽しみ方もあります。あなたの目で読んで、見て、極上の恐怖と驚きを味わってください

Another  
綾辻行人

この中で一番印象に残った場面は、主人公の「僕」が何もしられずにそのまま桜良に旅行に連れて来られ、宿泊先で突然始まった「真実か挑戦か」というゲームを通してお互いの距離が縮まる場面です。桜良が始めたゲームでお互いの

知らなかったところを知って距離が縮まっていったので面白いなと思いました。

この本を読んで学んだことは、生きるがいかにかけがえのないものか、ということだと思います。もし明日死ぬとなったら何をしようか、そもそも生きるといふことは何なのか、ということと深く考えてみたいと思いました。この本は映画化もされているので、原作と映画を見比べてみるのも面白いと思います。ぜひ読んでみてください。

君の臍臓を食べたい  
住野よる

一年四組 高島海龍  
『メデイウム』 相沢沙呼

この本は、推理作家の香月史郎が、霊媒であり、死者の言葉伝えることができる城塚翡翠と出会い、世間で恐れられている連続殺人鬼を追い詰めようとする物語です。

この物語の中で魅力を感じたところは、主人公だと思われていた香月史郎の視点で氣

持ちが細かく書かれており、物語の展開が香月の気持ちを追いつながらで分かりやすく、誰でも物語に没頭することができると思います。

さらに、もうひとつ、読み終わった後にすぐく印象に残っていることがあります。それは、読者までだましていたというところだと思います。最後に分の推理・考えなどがすべて覆されたことがとても印象に残っています。

この本は、香月の気持ちだけでなく「風景の描写や登場人物の動きが比喻などを使い、全て細かく描かれています。推理とは関係のない他愛のない日常場面でも事細かくかかれています。場面ごとの登場人物たちの感情や周りの状況が分かりやすくかかれています。

ため、前にも言ったように誰でも読みやすく、その上、とても国語の勉強にもなると思います。

自分は、ネタバレをしたくない・されたくない人なので本の感想といえばこの内容はあまり充分だとは言えないと思います。ですが、この本には言い切れない程の魅力を秘

めています。僕が気づいていない魅力もあるはず。少しでもこの本に興味を持ったら、探して是非手に取り、読んでください。もし読むときは、これだけは覚えておいてください。城塚翡翠は、ただの霊媒ではありませんよ。

Medium  
相沢沙呼

一年五組 原陸飛 神戸美桜  
『神様の願いごと』 沖田円

特に夢もなく将来への希望もない高校二年生の七規千世。毎日を普通に、ボーっと過ごしていたある日、雨宿りで神社を訪れます。するとそこで常葉とき(は)という美しい男に出会います。しかも、その男はこの神社の神様ただとい

います。無気力な千世に、常葉は「夢が見つかるまで、この神社の仕事を手伝うこと」と命じます。その日を境に千世は人々の喜びや悲しみに触れ、人生で大切なものを見つけて行きます。ですが、その

間に常葉に思いもよらぬ未来が迫っていました。

この本は、人の感情の移り変わり、何気ない日々がとて細かく、分かりやすく書かれています。高校二年生とすることで身近に感じられる千世の考えや思いに頷く程共感できるところもあります。

夢を持たない千世が様々な人々の願いや夢を通して大切なことに気づいていく中での人々に対する常葉の切ない程の愛、夢、そして絆。生きる意味を教えてください。最高に心の温まる物語です。

神様の願いごと  
沖田 円

一年六組 川上瑛大  
『残穢』 小野不由美

ある日、小説家の「私」のもとにある女性から手紙が届く。内容は住んでいるマンションの部屋から奇妙な音が聞こえるというもの。「私」はその女性と連絡をとり、調査を始めるが、マンションや周辺の土

地で住民の不可解な死、多数の怪奇現象が起こっていたことが徐々にわかっていき、「私」自信にも異変が現れ始める。

小野不由美のホラー小説「残穢」。この話の怖いところは、この本を読んだ自分や自分の周りにも、何か異変が現れるのではないかと思わせられるところ。作者と同じプロフィールを持つ主人公や実在の人物の登場がこの話をまるで実話のように仕立て上げ、読み終わったあとにも不思議な不安感を感じてしまうような作品になっています。また、心霊現象に否定的な主人公や、心霊現象の有無を確認するまでの緊張感を楽しんでいる女性など、個性的な登場人物も多く、最後まで飽きずに楽しむことができます。映画化もされているので、そこから始めてみるのもいいかもしれません。とてもおもしろいのでぜひ一度読んでみてください。

残穢  
小野不由美